

# 新

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 広報誌  
Hyogo University Public Relations Magazine ~nagomi~

学長座談会 巻頭特集

## 大学が地域とともに 明日を創る

めざすは自由で懐の深い人材の育成

一般社団法人日本事業構想研究所代表理事・  
東京農業大学教授

木村 俊昭

×

兵庫大学学長

河野 真

×

NPO法人 Deep people 理事長

牧 文彦

vol. 12

2020年9月



一般社団法人日本事業構想研究所代表理事・  
東京農業大学教授

木村俊昭



兵庫大学学長

河野真



NPO 法人 Deep people 理事長

牧文彦

# 大学が地域とともに 明日を創る

## めざすは自由で懐の深い人材の育成

2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、貧困問題、気候変動など世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が、2016年から2030年までの国際目標として掲げられています。兵庫大学ではこのSDGsの理念と、建学の精神「和」の関わりを重視しつつ、地域に根差す大学として、人材育成という面からSDGsの目標達成に貢献しようとしています。内閣官房シティマネージャー(自治体・特別参与)の木村俊昭・一般社団法人日本事業構想研究所代表理事・東京農業大学教授、牧文彦・NPO法人Deep people理事長、河野真・本学学長が、地域創生とSDGsの実現という目標に向けて何ができるのか、大学が担うべき役割は何かなどについて語り合います。

## コロナ状況下にこそ「和」の精神を

**河野** グローバルな問題解決目標としてのSDGsと、地域創生。この2つのテーマは、一般の人からはあまり関連性がないような印象をもたれるかもしれません。お二人は、どういうつながりがあると捉えておられるのでしょうか。

**牧** 不謹慎な言い方かもしれませんが、昨今のコロナ禍という情勢が、身近な地域とグローバル社会のつながりを実感させてくれる一つの契機になりました。人々は、世界と地域は無関係ではなく、世界中に広がっている貧困や格差の問題も、他人事ではなく自分事なのだと感じるようになってきました。コロナという一つの現象のもとで、今までのような経済一辺倒の視点からは見えてこない多様な価値に人々が気づき、SDGsを真剣に考える土壌が生まれたかなと感じています。

**木村** 私は国の仕事に携わりながら、地域活性学会の設立に関わるなど、産官学金公民のさまざまな皆さんと活動してきました。地域創生とは、基本的には地域雇用や人口問題など、自分のまちの問題を自分たちで考えることなのですが、より地域連携を強め、他のまちと一緒に、さらに日本だけでなく、近隣のアジア諸国なども視野に入れて問題解決に取り組むことが必要だと考えています。それと同時に、産業重視の姿勢を再考すべき時がきています。環境のことも考慮し、「自分たちだけ勝ち組でいいのか?」という点も含めて経済を考え直す必要があります。SDGsが掲げていることは、世界的視点で見れば当たり前のことですが、指標(ものさし)がないので、そこは自分たちで考えねばなりません。持続できる仕組みを創るには、地域が一体となる全体最適を考え、指標と、どこがどういう役割を果たすのかをよく考え、人財を育むことが大切です。そのためには、例えば地場産業振興、未来産業創発と同時に人財養成プログラムの作成と実践がなくてはなりません。

**河野** これまで日本、世界は経済、産業優先でやってきて、日本も確かに豊かになりましたが、市場主義が行きすぎ、その結果どうなったかという、世界のトップ20数人のもつ富が、下位半分の38億人のもつ富とイコールという状況になってしまいました。経済優先主義のほころびが格差を招いた、その反省として出てきたのがSDGsではないかと思っています。今は世界がコロナ禍にあって大変な状況ですが、それに対して私たちは従来の市場主義的な発想ではなく、他の人をおもんばかる心、利他主義の視点を持たねばなりません。牧さんがおっしゃったように、今こそSDGsの理念に則って、誰一人取り残さない社会の実現を目指すべきです。本学は建学の精神「和」を掲げ、感謝、寛容、互譲をもった人を育てるべく努力しています。これこそ今の時代が求める人間像ではないでしょうか。

## 現場を知り未来へのストーリーを描く

**河野** 兵庫大は地域唯一の高等教育機関であり、地域を元気にという視点から、地域と共に歩んできました。地域ニーズに対して、こ

れまでは、求められればそれに応えるというオンデマンド型でしたが、そこをもう少し体系化して、組織的にやっていきたいと考えています。福祉、教育、健康など、求められる領域ごとにプロジェクトを整理して学生・教員を派遣するとともに、さまざまな団体や企業などとも連携を図りながら地域貢献を進めていこうと計画しています。我々の動きが地域創生につながっていけばと考えています。木村さんは、これまで地域創生を行政の立場から牽引されてきましたね。

**木村** 私は北海道オホーツク地域の生まれですが、高校時にまちの産業が衰退していくのを見て、何とかしたいという思いから行政マンを目指しました。ところが最初の職場で、行政職員は現場を知らないということに気づいたのです。行政、商工会議所、JAなど、皆さんが一生懸命に動いていますが、残念なことにバラバラで、ストーリーがありませんでした。総合計画を作成しても、事業の羅列になってしまうのは「どこがいつ、何をやるのか」がなく、実践後の未来への見通しもないことが多いからです。そこで、まち全体の最適化を考え、産官学金公民のそれぞれが持ち味を生かすストーリーの作成が大切だと考えるようになりました。ストーリーを考えて地域のしくみを創発できる人財の育成こそが求められています。

また、これまでの大学や大学院の教育では、人間関係づくりに関してはなかなか教えてくれませんでした。自分のことさえよければという考えでは、広がりのある活動ができません。周りをしっかりとみて協働することで、はじめて相互理解ができるのです。このことを地域創生の観点で考えていくと、まず、「この地域が今よりも活性化してほしいと誰もが考えている」というのは思い込みです。「この地域を元気にしましょう」と言っても「現状で十分」と言われてしまうこともあります。まず、そこに住み暮らすひとが、本当はどう考えているのかなど、信頼関係を築き、誠実に対話することが重要です。

**牧** 私はデザイナーが本職で、商品開発や社会のデザインなど、まとめて情報デザインと言われるカテゴリーの仕事をしてきましたが、かつて障害のある方のアビリティを高める公立の学校で教えていた時に、全盲や弱視の人が事務系の仕事などの学びもできるように門戸を開いてほしいと考えるようになりました。当時は確実に技能がある人でも、就職活動時に企業から「前例がない」と言われ、雇ってもらえなかったのです。このことをきっかけに、私は障害があっても普通にビジネスができる時代が来るように、デザインの力で世界を変えることをめざすようになりました。

デザイナーという仕事に関しては、いつも自由な発想を大事にしたいと思っています。小学生のうちには自由にものを考えられるが、中学生になると固定概念にとらわれ、奔放な発想が止まってしまうのは、受験勉強の弊害です。効率よく学ぶ、覚えるという訓練を続けるうちに、正しいことしか言っていないという閉塞的な空気が生まれます。大人は、子どもたちに「正解」だけを教えていないでしょうか。社会に出る前の大学生には、自由な発想を再び持つような教育が大切だと、私は実感しています。地域の活性化も同じで、

地域の中に自由に話せる場、聞いてくれる場を作ることが重要です。大切なのは「人」であり、多様な意見を現場で聞き、清濁合わせて価値を捉え直すことが求められています。地域共通の価値を、経済、環境などを総合する新しい仕組みとして作り上げていけば、その結果、ブランド化が実現します。地域に本来満ちあふれている宝物を活かしていけば、そこに仕事が生まれてきます。今や、インターネットを通じて在宅ワークができる環境、しくみがあり、どこに住んでも仕事ができるテクノロジーがあります。そこを生かして新しい地域づくりができれば、サステナブルな、誰も取り残さない社会が生まれていくのではないのでしょうか。

### 「横のつながり」を問題解決に生かす

**河野** 自由に考え、自由に人とつながるための取り組みとして、本学はいま、答えがない課題に取り組むPBL(課題解決型学習)に力を入れています。学生たちは、ベースになる知識の習得や議論を学内で行ったのち、学外で試行錯誤しながら実践活動を行います。失敗を繰り返しながら、解決に近づいていく経験を重ねるのです。学生時代は失敗してもOKであり、むしろ失敗を繰り返すことで成長してほしいと考えています。学生たちは課外活動では、地震や水害など災害時のボランティアにも参加しています。そこでは教育や医療、福祉など、専門の学びを生かした活動を行っています。学生には時間がありますから、在学中にキャンパスの外でも大いに経験を積んでほしいのです。

**木村** 問題・課題解決型思考を身につけるのは大切なことです。現場の緊急性、重要性の中で自分たちで決め、考える力を養います。行動する時にはタイミング、パワー、スピード、バランスやチームワークが必要ですし、他地域との調整能力も求められます。さらに、ひとネットワークが必要です。大学、大学院生のうちに社会の人々と十分に対話をして、実学、現場重視や全体最適の視点を十分に学び取ってほしいですね。

**牧** 問題・課題解決型思考の育成について、私が大学で教えていた時、「スマイルデザインプロジェクト」というプログラムを組み立てました。これは障害のある人も参画するビジネスを進めながら、社会の課題解決に取り組むという教育プログラムで、2008年のグッ

ドデザイン賞をいただきました。

このプログラムの中で、ある学生が、アメリカのNPOが主催するプレゼンコンテストに出場しました。英語での発表は大変でしたが、頑張ってシンガポールでの世界大会で入賞したのです。評価されたことで、この学生は大いに変化し、強い自己肯定感をもつようになりました。

この「スマイルデザインプロジェクト」には、中高生や小学生にも挑戦してもらいました。ある小学6年生が食品ロス問題をテーマに開発した「食べ残しNOゲーム」は高く評価され、消費者白書で紹介されました。若い人たちには可能性があります。「どんどん自由にやっついでいいよ、提案していいよ」と応援したら、もっとイノベーションを起こせるのではないのでしょうか。

**河野** 若い人たちが挑戦する場をもっと増やしていきたいと思えます。あわせて本学では、若い人だけでなく、社会人の学び直しを地域のなかで提供する取り組みも進めています。本学を幅広い年齢層の方々の学び舎としても意識していただけるよう、大学づくりを進めていきたいと考えています。また大学は、地域創生のハブとしての役割を担っていると思います。本学は県、加古川市と連携しており、私は5年ごとに市が策定する地域福祉計画の委員長も務めています。ここで課題となっているのは「互助」、つまり市民同士の協力で福祉課題を解決する取り組みです。自治会や婦人会、老人会など、旧来の地域組織は弱体化していますが、今後はNPOや企業、学校などの参画グループを増やしていき、重層的なネットワークを作っていこうと提案しました。それらのグループは、単独ではなかなか機能しにくいので、本学のプラットフォームを活用してまずは小さなネットワークを作り、病院や福祉関連団体などと協働で課題解決を進めたいと考えています。

大学はもっと地域との横のつながりを育てていかなければいけません。そのためには多くの活動主体と互いに理解し合い、弱点を補い合いながら連携することが必要です。大学がさまざまなネットワークを構築し、地域で、あるいは地球規模で起きている諸問題の解決につながるような活動を進めていかなければならないと考えます。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。

#### ●きむら としあき

1960年北海道生まれ。慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得。84年、小樽市入庁。産業振興課長、産業港湾部副参事などを歴任し、小樽市の地域ブランド化を実践。2006年から内閣官房・内閣府企画官として、地域再生策の策定などに携わるとともに、内閣府経済社会総合研究所の特別研究員として地域創生に関する調査研究などを担当。09年から農林水産省を経て、12年、東京農業大学教授に就任。自治体総合政策アドバイザー、日本地域創生学会会長、実践総合農学会理事、全国農業会議所委員会委員ほか。

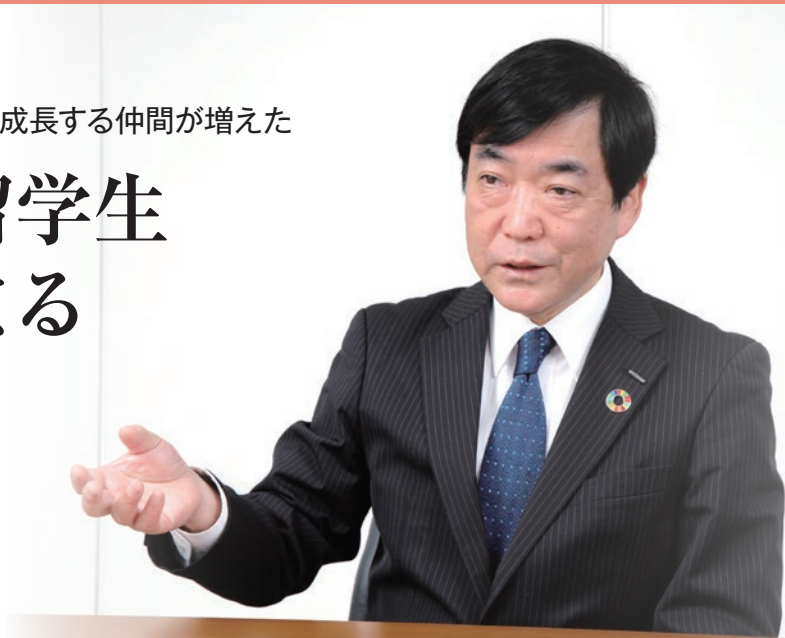


#### ●まき ふみひこ

2007年 Deep people を設立し、「デザイン」をキーワードに、社会貢献する人材の育成、環境に配慮した商品の開発などを進める。Deep peopleの主な実施事業は、未来価値創造大学校設立(17年)、関西SDGsプラットフォーム食品ロス削減分科会 ZERO FOOD WASTE(19年)、関西SDGsプラットフォーム教育分科会 SDGs ナレッジラボ設立(20年)など。20年7月、同NPO法人は、兵庫大とまちづくり、地域発展、人材育成などに関する包括連携協定を締結。

現代ビジネス学部 ともに学び成長する仲間が増えた

# 海外からの留学生 受け入れ始まる



●現代ビジネス研究科長  
現代ビジネス学部学部長  
専門・地域創生、起業創業  
教授  
松本 茂樹

今やいや応なしに海外とつながる「大移動時代」。直接外国人と関わりをもたない人も、ものやサービスのやりとりを通じてグローバル化の影響を受けています。そんな中で現代ビジネス学部では、今春入学した留学生1年生7名を皮切りに、本格的な長期留学生受け入れがスタートしました。秋からは同学部への3年次編入も開始予定。日本人学生たちは長期留学生とともに学び、新しい刺激を受けることになります。

## アジア各国から「本気」の人々が来る

4月に入学したのは、日本の語学学校で学んでいた中国人とインドネシア人の学生です。彼らは一言で言えば「本気モード」。つまり、経営学を学んで本国で必要とされる産業分野で活躍したい、日本の大手企業に就職したいなど、目的が非常にはっきりしています。

秋からは韓国とベトナムから交換留学生が来ますし、画期的なことはベトナム有数の大学であるハノイ貿易大学からは、3年次編入生を受け入れる予定です。こうしたアジアの国々は日本との交易が盛んで、文化的にも共通点があるので、日本人との親和性は高いでしょう。

## キャンパスにパラダイムシフトを

兵庫大生には、留学生と関わることでパラダイムシフト(発想を転換させる)してほしいです。日本の学生だけでは、例えばビジネスコンペに応募すると、検索すれば出てくるような提案は出せても、従来の価値観を覆すようなイノベティブな提案にはなかなか到りません。そんな彼らにパラダイムシフトをもたら

したいですね。

留学生に学んでほしいことは、「和」という建学の精神です。「和」とは、異なる文化をもつ人々が互いの違いを認めた上で、win-winの関係を構築することだと私は思います。勝ち負けを追求するのではなく、互いに議論し納得して、第3の策をともに考えることができる人間に育ててほしいと思います。このことは留学生だけではなく、一般学生にとっても大事なこと。ともに学ぶことで多様性を身につけてほしいです。

## ローカルでグローバルな交流を

現代ビジネス学部は地方創生に資する人を育てる教育に力を注いでいますが、留学生にはこの点に共感して本学を選ぶ人が多いようです。すでに今春から開設した現代ビジネス

研究科(大学院)でも、ベトナム人学生がグローバルなビジネスセンスを磨くべく研究活動に取り組んでいます。

本学部では早期から起業体験などを通じてコミュニケーションやチームワークを学び、失敗を重ねながら成長していくことができます。われわれ教員は授業を通じて「マネジメント」を学び、いつか本国に戻って地元を豊かにしたいという留学生たちの熱い想いにしっかりと応えていきたいと考えています。

また、留学生受け入れは、本学が連携構築を進めている地元・東播磨地域の企業にとっても関心事です。海外進出を企画する企業も多く、優秀な外国人を雇用したいと考えています。留学生との交流が一つの起爆剤となることを願ってやみません。

本学では留学生の支援に向けてさまざまな仕組みを整備しています。学生支援課では、4月から外国人の担当職員を1名配置し、留学生の生活を全面的にサポートしています。日本に就職したい学生もいるので、彼らの進路についてもじっくりと考えていきたいと思っています。また、公営住宅を借り上げてシェアハウスとし、留学生と日本人学生と一緒に入居する試みはすでに開始しています。併せて同住宅に、留学生が地域の方々と一緒に話し合い、地域の中で活動できるように、共同で事業ができる部屋を設けました。

留学生には、単に本学で授業を受け

## 全学を挙げて強力なバックアップを



●教育学部長  
共通教育機構教授  
北島 律之

るというだけでなく、日本人学生と交流し、学生同士で新しい集団、文化を作って欲しいと思うので、教学、生活の両面から強力にバックアップしたいと考えています。



## 東播磨地域×兵庫大学

# 地域のひと、まち、 くらしをもっと豊かに



地域を輝かせる大学でありたいとの思いから、本学は、行政や産業団体、福祉・教育・スポーツ関係機関などと連携を図り、多様な活動を行っています。行政との連携に関しては、本学が位置する加古川市や近隣市町を含む、東播磨地域をカバーする兵庫県東播磨県民局とも密接な関係を構築しています。地域と本学は、ともに手を携えてどんなことができ、どんな未来が描けるのか。伊藤裕文局長と田端和彦副学長が語り合いました。

●東播磨県民局 局長 伊藤 裕文

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部副学長  
(研究・社会連携担当)

田端 和彦

——兵庫大学と東播磨地域が地域連携する意味は？

**伊藤** 今、東播磨県民局が進めているのは「元気でワクワクする地域づくり」です。10年、50年、100年後を見据えたまちづくりを進めるには、この地域の「世界に通用する資源」を生かし産業を振興するとともに、自然災害などのリスクから住民の安全・安心を確保することが肝要ですが、そのためには若い人の力と視点が不可欠です。

兵庫大学が進めている取り組みは、我々の施策によく合致していると感じています。例えば、学生が近隣自治体や組織と連携して挑戦する学内コンペ「PBLグランプリ」などは、地域活性化に向けたすばらしい取り組みだと思います。兵庫大学が育成した人材には、将来どんどん東播磨地域で活躍してほしいですね。

**田端** 本学の規模では、通常なら市町村との連携が考えられるのですが、兵庫県には広域と基礎自治体の中間的な規模の「県民局」

があるため、連携すると市町村レベルよりは大きく、都道府県レベルよりは小さい、ちょうどいい規模の活動が可能となります。保育や福祉、医療などを学ぶ学生にとって、市町村はサービス提供の最前線にあたり、そこでの学びは大事です。一方、県は市町村では対応しきれない大きな問題に対し、俯瞰的な視点から仕事をされており、地域連携によって、この視点も学ぶことができます。例えばPBLグランプリで学生が提案した「AI農業」には、地域に根づいた農業という産業とAIという、産業横断的な視点が現れていました。

——AI(人工知能)、ICT(情報通信技術)を使った動きが増えそうですね。

**伊藤** 東播磨地域ではAIやICTを活用した「スマートシティ」の事業が今年度から本格的に動き出します。地域の課題に早期に対応し、次世代の産業を推進することでまちが活性化し、人が集まる。今、新型コロナウイルス対策としてリモートワークが進みつつありますが、教育や医療などの分野も、今後大きく変わっていくでしょう。

交通もICTと関わっています。バス、タクシーのドライバー不足、高齢者の事故などの問題解決には、自動運転の実現が必要です。我々も公共交通の自動運転の実証実験を進めています。また、未来型の農業技術の開発も始まっており、すでにドローンを飛ばして、苗の発育が悪いところにだけ農業を散布する取り組みや無人トラクターなどの試みが出てきています。ただ、こうした技術の発展にあたって、技術者の視点だけでは不十分です。そういう意味で、学生さんが利用者の視点をもって一緒に取り組んでくれるとうれしいですね。

**田端** まさに利用者の視点、ビジネスの視点から学生がAIとデータサイエンスの基礎を体系的に学べるよう、現代ビジネス学科に次年度から「AI・データサイエンス副専攻」を開設することになりました。

**伊藤** 大変期待しています。AIを進めるには、若い視点がぜひ必要です。聞くところによると、PBLグランプリに向け、ため池の法面を刈ることができる芝刈りロボットを開発中の学生がいるようですが、そういうチャレンジは大変うれしいですね。

——医療や福祉の分野でもAI、ICTは活躍する？

**田端** 医療、福祉などヒューマンサービスの分野でも、統計などから読み取れる全体の動向を各患者、施設利用者にどう当てはめるかという部分で、データサイエンスが必ず重要になります。現代ビジネス学科のなかでデータサイエンスを深め、医療、福祉系の学科にもフィードバックしていきたいですね。

**伊藤** ものづくりやヒューマンサービスにAIやICTを活用する企業はすでにありますが、情報技術を活用した産業の高度化という流れは、これから医療や福祉の分野にも広がっていくでしょう。

**田端** 多様な業種の動きを見ると、視野が広がりますね。学生にはいろいろヒントを与え、チャンスを広げてもらおうと思っています。彼らはバーチャルな世界に強いですが、それだけで終わるとビジネ

スマモデルとしては限界があるので、リアルな世界とどう繋げていくかが大切です。

**伊藤** リアルとバーチャルを融合した空間が、教育には重要ですね。

**田端** スマートシティの取り組みの中で高度な通信システムが整備され、教育や研究でビッグデータが使えるようになると、大学にとっては大変ありがたいです。

——兵庫大学では、留学生受け入れなどの国際交流が活発化しています。

**伊藤** 東播磨地域には国際交流という意識は神戸などと比べると低く、留学生も少なかった。しかし、この地域には、世界に打ち出せる資源が豊富にあります。そのなかで、兵庫大学が留学生を受け入れ、県営住宅に留学生と日本人学生のシェアハウスを設け、さらに地域との交流の場も作ったというのは、とてもいいお話です。これは日本では初めての試みではないでしょうか。大きな話題となり、県民局にも問い合わせがきています。

**田端** まだマッチングが実現し、入居に至った例は少ないのですが、今後増えてくると思います。留学生は神戸から通っている人が多いので、「こちらに住んで下さい」と声掛けしているところです。

——世界に誇れる東播磨地域の産業や自然を生かしたい。

**伊藤** 東播磨地域には世界トップクラスの企業が多くあります。東播磨地域の製造品出荷額は宮城県規模で、これは技術力があるからです。世界の環境問題になっている地球温暖化や海洋プラスチック汚染に対応する最先端技術もあります。今年は、学生の知恵も借りて「世界最先端の環境都市・東播磨」を打ち出したいと考えています。

**田端** 東播磨地域は海、川、ため池の水辺豊かな地域で、都市部でこういうところは珍しいと思います。これらの水辺環境と里山をまとめて生かしていきたいですね。

**伊藤** 昨年度、特別天然記念物のコウノトリが26羽飛来しました。飛来数は年々増えており、地域の元気に繋がっています。また、加古川を生かし世界レベルのスポーツのメッカにしたいと考えています。今はレガッタやマラソン・駅伝の利用がメインですが、今秋にはオフロードの自転車レースを予定し、注目を集めています。ボートなどウォータースポーツでも盛り上げたいですね。スポーツや自然の活用には学生の力が必要です。

**田端** 現在休部となっている漕艇部も復活させたいですね。今本学では、世界大会規模のカローリング(注1)大会を準備しています。これが、高齢者や障害者のスポーツを考えるきっかけになってほしいと思っています。

(注1)屋内で行うカーリングに似た競技。

**伊藤** 世界大会を企画していく学生の発想力がすごいです。期待しています。地域の未来がいつそう輝くよう、ワクワクするよう一緒に頑張っていきましょう。楽しみにしています。

# 学生とともに、 身近なところから 食糧資源について考える 消費者市民社会の実現に向けて

●健康科学部栄養マネジメント学科 准教授

専門：公衆栄養学、消費者教育論、生活経営学

嶋津 裕子

〔研究テーマ〕食育／開発教育(SDGs)／消費者教育など



「食育」「エシカル消費」についての実践的研究とともに、学内外での講演活動も活発に行なっている嶋津裕子准教授は、学生の想像する力、行動する力を高めるPBL型教育に力を入れています。管理栄養士、消費生活アドバイザーとしての経験を生かし、多彩な活動を続ける准教授に、現在のさまざまな取り組みについて聞きました。

——講演では「世界はつながっている」という言葉で切り出すそうですね。

小中学校の先生や地域のリーダーたちには、地球儀を見せて、「私たちが今の生活水準を維持するために、地球は何個必要だと思いますか?」と話し始めることが多いですね。

今、さまざまな分野で世界はつながっています。国連の提唱するSDGsのことを知らなければ、もう行政や企業人として仕事には就けない。そんな時代にあって、「SDGsを自分ごとに」、だれも置き去りにしない世界をめざしたいという思いが、自分の中にはあります。私が本当に伝えたいのはグローバル時代にこそ重要な「消費者市民社会(シチズンシップ)」の哲学ですが、講演では、食品ロスやエシカル消費、子ども食堂など、「消費者市民」になるための具体的な手法からお話しています。

——学内では食品ロスをテーマにした映画の上映会をされています。

昨年、「0円キッチン」というヨーロッパ映画の上映会を、学生の企画・運営で開催しました。学生たちは啓発ポスター制作などの準備



を通じて、「今まで捨てられていた食材からおいしい料理を作ろう」という映画のメッセージを受け取り、知識を蓄えていきました。さらに、ロス食品からレシピを開発した学生や、上映後に映画を観た人の反応を調べた学生もいました。

映画をきっかけに学生と学内外の参加者がエシカル消費について考え、話し合うようになってくれたならば幸いです。

——学生の活動が、学外でも評価されました。

また「関西SDGs ユース・アイデアコンテスト」(主催：関西SDGsプラットフォーム/公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会)では、3、4年生の合同による「食品ロスを考える」企画が企業賞を受賞しました。(※)廃棄食材を使ったレシピ開発のほか、農家の生産量の増減時期を調査し、廃棄農産物の削減に取り組むというアイデアでした。学生たちは、農家の皆さんのリアルな姿と真摯に向き合うことで、現実社会をより深く知ることができると考えたのです。

——研究活動を通じて、訴えたいことは?

身近なことを見つめ、世界とのつながりを実感してほしいですね。例えばスポーツで言えば、「サッカーボールの原料は?」の答えは天然ゴムや皮革ですが、天然ゴムは開発途上国のプランテーションで、児童労働によって生産されている。また、「新型コロナウイルス感染症対策には手洗いが有効」と言われますが、世界にはきれいな水が手に入らない場所もある。ではどうすればいいか。

大学の4年間でそういうことを想像し、解決策を導く力を養うことは、とても大事です。想像し、調べ、考えることが、「消費者市民」への第一歩なのです。

(※授賞式は新型コロナウイルス感染拡大のため延期されています)

④廃棄食材を使った料理  
⑤学生が企画した「0円キッチン」上映会の手作り啓発ポスター。  
「世界の人が日本の人と同じ暮らしをするには、地球およそ3個分の自然資源が必要になるのです。」





# 子ども中心の 保育環境を育むために

## 兵庫大学特別支援保育士プログラム をめぐる取り組み

●生涯福祉学部 学部長 子ども福祉学科 教授

専門：社会福祉学

田中 博一

【研究テーマ】

介護福祉士の職務と職業能力に関する研究/保育士のキャリアパスに関する研究など

長年にわたる北欧などとの比較研究を通じて、日本の介護福祉士の地位向上に取り組んできた田中教授。子ども福祉学科においては、本学独自の認定資格である「兵庫大学特別支援保育士」プログラムの構築、フィンランドの専門家との児童福祉に関する共同研究などを積極的に進めています。



介護福祉士養成テキスト

### ——子ども福祉学科で教鞭をとる以前は、介護福祉士の地位向上に注力されてきました。

約30年前から日本の介護福祉士の社会的評価向上に資するため、欧州の職業教育と日本の介護福祉士養成課程の比較研究を行いました。その結果、日本では教育課程、学位、資格が一致していないことが介護福祉士の社会的評価が上がらない原因になっていると考えました。

フィンランドでは介護福祉士は高卒レベルの資格、ドイツでは4年制大学で養成を2015年から始めています。しかし、日本では介護福祉士の資格取得には、いくつかの道筋があり、また必要とされる学位もありません。これについては、国に提言を行っています。

### ——子ども福祉学科では「兵庫大学特別支援保育士」プログラムを推進していますね。

兵庫大学では、子ども福祉学科の立ち上げから関わってきました。同学科は教育学部ではなく生涯福祉学部のなかに設置される学科であるため、設立時には福祉の視点から「どんな幼稚園教諭、保育士を育てるべきか」について議論を重ねました。私は障害児にも対応できる保育士の必要性を強く感じ、本学独自の「兵庫大学特別支援保育士」という考え方を打ち出すようになったのです。

また、初等教育・保育に携わる者は子ども一人一人の発達を程度を



年齢、時間経過で把握できることが必要だと考えるようになり、介護福祉士の研究で縁のあるフィンランドの特別支援教育に注目しました。以来、現地に学生を派遣するとともに、教員レベルでも共同研究を行っています。この研究は、児童相談所のスタッフ育成プログラム作成がテーマです。フィンランドも「児童虐待に相談所職員はどのように対応すべきか」という日本同様の課題を抱えているため、共同で取り組もうということになりました。

### ——フィンランドの保育・幼児教育の特徴は？

日本の集団教育とは異なり、フィンランドでは個別の教育計画 (Individualized Education Program) が実施されています。個人の能力を成長とともに伸ばしていくことが目的ですが、先生、保護者に加えて本人もプラン作成の話し合いに参加するところがすごいです。

本学の卒業生には、個別教育計画を作り、評価できる力をもってもらいたいと考えています。そのため「兵庫大学特別支援保育士」の考え方のもとで、発達障害や、心と体のしくみの勉強、子どもへの対応スキルなどについての学びを提供しています。今では、子ども福祉学科の在籍者の多くがこのプログラムを履修します。「何らかの困難を抱えている子どもの役に立ちたい」という思いをもって児童福祉の分野に進みたい人も増えています。こういう若い人たちと一緒に、次の時代の福祉の問題を解決していきたいですね。



トウルク応用科学大学学長と

# Bangladesh での 幼児教育の現場を通して 見えてきたもの

さまざまな子どもたちが、公平で質の高い教育を受けるために

●短期大学部保育科 講師 専門：保育学、幼児教育学  
 山村 けい子

【研究テーマ】 Bangladesh の就学前教育の現状と課題

保育士としての長年の実践経験を生かして学生指導に打ち込むとともに、国際的なフィールドワークにも力を注ぐ山村けい子講師。 Bangladesh での幼児教育の現場を考察することで、グローバル化、社会情勢の変化が進む日本の就学前教育にも通じる貴重なヒントが得られるのではないかと考えています。



## —今の研究を始めたきっかけは？

私は保育士として経験を積んだ後に神戸大学の大学院に進学しました。以来、ESD(持続可能な開発のための教育：いのちの持続性を大切にできる社会になるための人・コミュニティづくり運動)という活動を通じ、地域と地球規模の課題解決について学んでいます。

Bangladesh の就学前教育について研究するようになったきっかけは、同国の教育支援活動に携わる市民団体「One Drop (Bangladesh 教育支援の会)」との出会いです。現地に小学校を開校した情熱と行動力に感銘を受け、支援の輪がもっと広がればと思うようになりました。国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯教育を促進する」という教育目標を掲げています。そこで私は、途上国の中でもこれまでほとんど紹介されてこなかった Bangladesh の就学前教育にテーマを定め、ESDをベースに研究を進めています。



Bangladesh での活動風景

## —フィールドワークを通じて見えてきたものは？

2018年から3回にわたってフィールドワークを行い、小学校や小学校の中にある保育室を訪問しました。最初に訪問した未就園児クラスではベンガル語教育がしっかり進められていたのが印象的でした。

その場の子どもたちに手遊びを紹介すると、すぐにまねをする時の可愛さは日本と変わりありません。貧困の中、多くの子どもたちは厳しい現状の中で生きています。しかし、その中でも生き生きと教育を受けている様子を見て、すべての子どものために質の高い教育環境を整えていくことの重要性を実感しています。

## —学生に伝えていきたいことは？

人々の多様性、つまり世界にはいろんな人がいるということを理解してほしいと思っています。「こんな考えの人も、あんな考えの人も、自然に暮らしていける社会」を学生とともに作っていきたくいですね。本学には私の研究に興味を持ち、「Bangladesh に持って行って」と折り紙を渡してくれた学生もいます。多様な環境で育った学生がいて、彼らから学ぶことも多いです。

## —保育の現場を知る研究者として、思うことは？

以前保育士として神戸市で仕事をしていた頃、アジア各国から日本に働きにきている人々と交流しました。「保育」は人と触れ合う仕事なので、いろいろな価値観に出会います。教科書には書かれていないことに会い、異なる価値観を持つ人同士がともに生きることの難しさも感じました。

## —これから取り組んでいきたいことは？

「教育の役割とは何か」と問い続けることがこれからの課題です。そこで、就学前教育・初等教育のなかでESD、SDGsの視点を重視しながら、「さまざまな人と共に生きること」を伝えていきたいと考えています。社会の課題を「自分ごと」として考え、やさしい社会、命を大切にする社会をみんなで育てていきたいです。

隅野さんが保育、幼児教育に進もうと決意したのは、なんと5歳の時。以来、優しい笑顔で包み込んでくれたあの先生のようになりたいと、日々努力を続けてきました。つねに心掛けているのは、子どもを指導するのではなく、一緒に考え、一緒に成長すること。「毎日のように、子どもたちの自由な発想に驚かされ、気づかされています」と、仕事の充実ぶりを語ります。

### 短大の学びで、夢がかなった

「幼稚園、保育園の先生になりたい」という幼い頃からの夢を、本学で実現した隅野さん。「在学中は、いろいろな先生方にお世話になりました」と振り返ります。「兵庫大学短期大学部は幼児教育の現場で長年経験を積まれた先生が多いので、実践的な勉強ができました」。特に思い出すのはピアノの授業。「人前で独奏できるように、しっかり指導してもらえました。おかげで今、保護者の皆さんを前にしても、落ち着いて演奏することができます」。

### 同級生や先輩、みんなに支えられている

入学時に参加した1泊2日のフレッシュマンキャンプで、多くの友人に巡り会えたと言います。「同級生と仲良くなれたのはもちろんのこと、1年上の先輩ともじっくり話す機会がありました。自分で科目を選択する大学での学び方や、保育実習のことなども詳しく聞け、『大学生になったのだ』と実感することができました」。そのとき親しくなった仲間やご指導いただいた先生とは、今も定期的に集まり、活発な情報交換を続けているそうです。

### 再開した園に喜びがあふれた

今年度は新型コロナウイルスの影響で、勤務先のこども園は4月から休園が続き、ようやく再開できたのが6月。当初はなかなか園



## パワフルな笑顔で子どもたちを元気にし続けたい



### 隅野 里菜さん

兵庫大学短期大学部保育科第一部を2018年3月に卒業後、加古川市立別府町幼稚園に勤務。2019年4月より高砂市立高砂こども園に勤める。昨年度は3歳児クラスを、本年度は4歳児クラスを担当している。

になじまず、泣きながらご家族に連れられてやってきた園児もいました。「その子が、帰り際にとびきりの笑顔で『楽しかったよ！明日も来るね』と言ってくれた時、『この仕事を選んで本当によかった』と、喜びが心の底から湧き上がってきました」。

毎日の仕事の中でうれしいと感じるのは「先生、今日はこんなことがあったよ！」と子どもたちが話しかけてくる時です。この2年間、担当しているのは3、4歳児。この時期の子どもは成長が著しく、できることがどんどん増えていきます。隅野さんはそんな子どもたちを型にはめず、いいところを引き出そうと努めています。「そのためには、自分も楽しむことが大切。そんな私の様子を見て、子どもたちは『この先生と一緒にいると楽しい！』と感じ、ついてきてくれるのだと思います」。

### 「一生懸命」は必ず伝わる

隅野さんは時折、勤務先のこども園で実習を行う学生から、仕事の楽しさやつらさについて質問されることがあります。そんな時は、「しんどいけど、とてもやりがいのある仕事ですよ」と答えます。

「学生時代は、子どもや保護者とうまく関わられるか、職場の人間関係はうまくいくだろうか、など多くの不安を持っていると思います。私もそうでした」。しかし現場に出てからは、頑張る気持ち、学ぶ姿勢を忘れなければ、周囲の方々の理解とサポートは得られると確信するようになったそうです。「あなたの一生懸命は子どもたちや大人の方々に必ず伝わりますよ」と、先輩へのメッセージを力強く語ってくれました。





## グローバル // アメリカ社会福祉ツアー

# アメリカの高齢者福祉、 幼児教育の現場に触れる 世代、社会背景を 超えた交流

2019年8月20日から29日、米国の福祉制度や幼児教育、文化への理解を深めようと、社会福祉学科の学生2名と保育科第三部の学生1名が社会福祉ツアーに参加しました。日米の違いを知ると同時に、両国のつながりも体験した充実の日々でした。

### 海外の福祉の状況を見聞したい

海外の福祉・教育の状況を知ってもらうため、毎年実施されているアメリカ社会福祉ツアー。2019年のツアーでは、アメリカ・カリフォルニア州にある日系の福祉施設「Kokoro Assisted Living Inc.」と地元の幼稚園・保育園を訪問しました。「子ども、シニアなど、社会福祉の現場は多様です。毎年、学生の要望に合わせて訪問先を決めています(本多)」。学生たちに参加理由を聞くと、「福祉について大学で学んでいるうちに、アメリカと日本の福祉の違いって何だろうと知りたくなりました(塩原)」、「高校時代に福祉の勉強を始めた。兵庫大学の入試説明会で米国研修があることを知り、ぜひ参加したいと思いました(川崎)」。

### 英語、日本語で自己紹介やアクティビティ

訪問先の幼稚園、保育園や高齢者施設では、学生たちはまず英語で自己紹介。現場に飛び込み、アクティビティを行いました。「どの訪問先

にも真っ白な団扇を持っていき、その上に、桜やお団子など日本的な絵柄のシールを作って一緒に貼りました(川崎)」。保育園での感想は「子どもの笑顔はどこでも変わらない!(塩原)」。「にぎやかだけど、発表になると、みんな積極的(川崎)」。幼稚園では「ヒスパニック系の園児が多いところで、ピアノなどのない教室でしたが、十分音楽を

楽しんでいました(川崎)」、「遊具にバスケットボールがあったのはアメリカらしいと思いました(塩原)」と、遊び方の違いを実感しました。

### 多様さを認め合う気持ちを大切に

カリフォルニア州内の高齢者施設では、日系2世の、日本でいえば要介護1、2程度のケアが必要とされる方々と交流しました。学生たちの印象に残ったことは、2世の方々か旧本とのつながりを重要視していたことです。「漢字を大切にしていると言われました(塩原)」。「親の世代がアメリカで暮らしていた頃には戦争があり、ご苦労なさったと聞きました(川崎)」。体当たりでコミュニケーションをとろうとする学生たちの姿に、本多准教授は「3つの現場で、学生は相手に自分の思いを伝えようと懸命にがんばっていました。努力しながら楽しんでたのがすばらしかったですね」と満足そうです。「世界には多様な人たちがいて、いろいろな状況があることを感じてくれたと思います。この経験を生かし、将来福祉の仕事に就いたときに、日本にも多様な背景をもった人がいることに心を向けてほしいですね(本多)」。



●生涯福祉学部  
社会福祉学科2年生  
塩原 芽(兵庫県立神戸商業高等学校出身)

●生涯福祉学部  
社会福祉学科2年生  
川崎 香凜(兵庫県立三木東高等学校出身)

●共通教育機構 准教授  
専門:宗敎社会学  
本多 彩

硬式庭球部  
(男子)

仲間がいるから頑張れる！  
支え合いながら成長し続けよう。

昨年度から特別強化指定クラブに認定された硬式庭球部(男子)。テニスプレイヤーの育成に携わる「株式会社トップラン」との提携により招聘した大崎翔平監督の指導のもと、日々研鑽を積んでいます。2名の部員とともに、今年2期目を迎えた硬式庭球部の姿を紹介します。

クラブ活動実績

- ・2019年度 関西学生春季テニストーナメントダブルスベスト32
- ・2019年度 関西学生テニス選手権大会本戦出場
- ・2019年度 関西学生チャレンジテニストーナメントシングルスベスト4
- ・2019年度 関西学生地域テニストーナメント(兵庫)ダブルス準優勝



2019年度公式戦での部員たちの勇姿



●健康科学部 健康システム学科2年生  
田中聖人(相生学院高等学校出身)

●健康科学部 健康システム学科1年生  
堺大志(相生学院高等学校出身)

みんなテニスにのめり込んでいる

硬式庭球部(男子)の部員数は、現在1年生5名、2年生6名、3年生2名の合計13名。現代ビジネス、健康システム、看護の各学科から集まった、テニスを愛する仲間たちです。

1年生の堺大志さん(健康システム学科)と2年生の田中聖人さん(健康システム学科)は、小学校時代にテニスクラブで知り合って以来の仲。出身高校も同じです。堺さんが兵庫大学をめざすようになったのは、特別強化指定クラブとしての1期生となる先輩の田中さんが、大崎翔平監督の指導のもと、めざましい成果を上げたことを知ってからでした。「ぜひ兵庫大学でテニスを続けたいと思いました」。

一方、田中さんは「兵庫大学に硬式庭球部は以前からありましたが、特別強化指定クラブになったのは自分たちの代から。ゼロからのスタートだという不安と期待がありました」と語ります。入学して感じた部の特徴は、少人数ながらもみんながそれぞれの課題に向かって練習するということでした。「練習時間は高校時代に比べて短いのに、テニスにもものすごく集中している。『のめり込んでいる』という感じです」。この点については堺さんも同意見で、「人数が少ない分、監督もきめ細かくアドバイスをしてくれるので集中しやすい。質の高い練習ができていると思います」。部員全員が仲良く、しっかり支え合えるテニス環境だという点でも、2人の意見は一致しました。

授業での学びをスポーツに生かしたい

2020年度のチーム目標は、リーグ戦で勝ち上がり、まず一つ上の部に昇格すること。田中さんは主将として「新型コロナウイルスの影響で大会が延期になり、モチベーションを維持しにくい面はあ

りますが、いつ大会が始まって準備不足にならないように、しっかり練習していきます」と語り、「個人では、関西学生選手権大会ベスト8以上、ダブルスではベスト4以上を狙います」。

堺さんは「得意のダブルスで優勝が準優勝。インカレベスト4をめざします」。

学業面では、2人とも中学・高等学校の「保健体育」教諭一種免許取得が目標です。堺さんは、「大学のウェブサイト」に、『スポーツが不得意な人にもス

屋内での練習風景



ポーツの楽しさを伝えられる体育教諭の育成をめざす」とあるのを読んで、すばらしい考え方だと思いました。田中さんは「授業を通じて、体の構造についてしっかり学んでいこうと思います。けがしにくい体づくりにつながると期待しています」。

意欲が高まる素晴らしい環境


最後に、兵庫大学の硬式庭球部(男子)の魅力を高校生に伝えるとしたら？とたずねると「監督はテニス指導でも人間的にも尊敬できるすごい人だし、設備も整っていて素晴らしい環境です。入部すれば、必ず強くなれると思います。」(堺さん)。「まず、大学の雰囲気がいいですね。学生はみんな仲がいいし、先生も職員さんも試合を見に来てくれる。『がんばれよ』と応援してもらえるので、やる気が出せます」(田中さん)。

(取材は2020年4月1日に行いました。)

●兵庫大学 兵庫大学短期大学部

設置者	学校法人 睦学園
設置年	兵庫大学 1995(平成7)年
	兵庫大学短期大学部 1955(昭和30)年
理事長	渡邊 東
学長	河野 真
校地・校舎面積	(校地面積)93,279㎡ (校舎面積) 31,059㎡
蔵書数	143,830冊

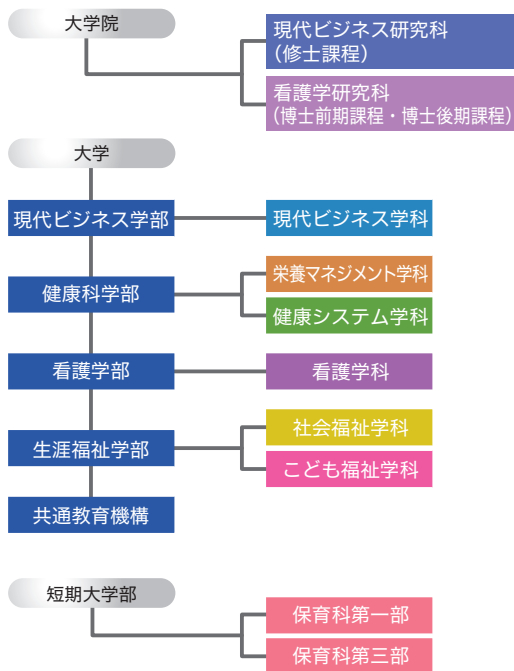
## 建学の精神



聖徳太子の御徳を慕い、その十七条憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成します。

※本学は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の宗門関係学校です。

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部教育研究組織



※経済情報学部経済情報学科及び健康科学部看護学科、経済情報研究科を除く。

附属施設・附置機関等

- 高等教育研究センター
- IR推進室
- FD・SDオフィス
- 社会連携オフィス
- 健康管理センター
- 教職・学習支援センター
- 学修基盤センター

- 附属総合科学研究所 — 実践食育研究センター
- エクステンション・カレッジ — ボランティアセンター
- 地域医療福祉研修センター — メディカルシミュレーションユニット
- 地域医療福祉研修センター — 看護・介護研修ユニット

●取得可能な資格 ★は国家試験受験資格 ☆は受験資格

大学	現代ビジネス学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高等学校教諭一種免許状「公民」・「商業」</li> <li>●上級秘書士・上級秘書士「国際秘書」</li> <li>●上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士「国際ビジネス」</li> <li>●上級情報処理士</li> </ul>
	栄養マネジメント学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●管理栄養士★</li> <li>●栄養士免許</li> <li>●栄養教諭一種免許状</li> <li>●食品衛生管理者</li> <li>●食品衛生監視員</li> <li>●フードスペシャリスト☆</li> </ul>
	健康システム学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●養護教諭一種免許状</li> <li>●中学校・高等学校教諭一種免許状「保健体育」・「保健」</li> <li>●健康運動指導士☆</li> <li>●健康運動実践指導者☆</li> <li>●初級障がい者スポーツ指導員</li> <li>●ジュニアスポーツ指導員☆</li> <li>●社会福祉主事任用資格</li> <li>●第一種衛生管理者</li> </ul>
	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護師★</li> <li>●保健師★</li> <li>●養護教諭一種免許状</li> <li>※保健師課程は選択制です。</li> </ul>
	社会福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉士★</li> <li>●精神保健福祉士★</li> <li>●高等学校教諭一種免許状「福祉」</li> <li>●社会福祉主事任用資格</li> <li>●児童指導員任用資格</li> <li>●福祉レクリエーション・ワーカー</li> </ul>
短期大学部	子ども福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼稚園教諭一種免許状</li> <li>●保育士資格</li> <li>●子ども音楽療育士</li> <li>●児童厚生一級指導員</li> <li>●社会福祉主事任用資格</li> </ul>
	保育科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育士資格</li> <li>●幼稚園教諭二種免許状</li> <li>●社会福祉主事任用資格</li> </ul>

# 兵庫大学・兵庫大学短期大学部

## ●学生数

(単位：人)

大学		男	女	計
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	223	108	331
健康科学部	栄養マネジメント学科	56	179	235
	健康システム学科	87	62	149
看護学部	看護学科	51	344	395
生涯福祉学部	社会福祉学科	55	77	132
	こども福祉学科	35	143	178
大学計		507	913	1,420
大学院		男	女	計
大学院	現代ビジネス研究科(修士)	2	0	2
	看護学研究科(修士)	0	2	2
	看護学研究科(博士)	3	6	9
大学院計		5	8	13
短期大学部		男	女	計
保育科	第一部	1	158	159
	第三部	9	259	268
短期大学部計		10	417	427
大学・大学院・短期大学部合計		522	1,338	1,860

※経済情報学部経済情報学科、健康科学部看護学科、経済情報研究科を除く。

## ●卒業生数

(単位：人)

	合計
大学(大学院含)	5,331
短期大学部(専攻科含)	30,890
大学(大学院含)・短期大学部合計	36,221

## ●専任教員数

(単位：人)

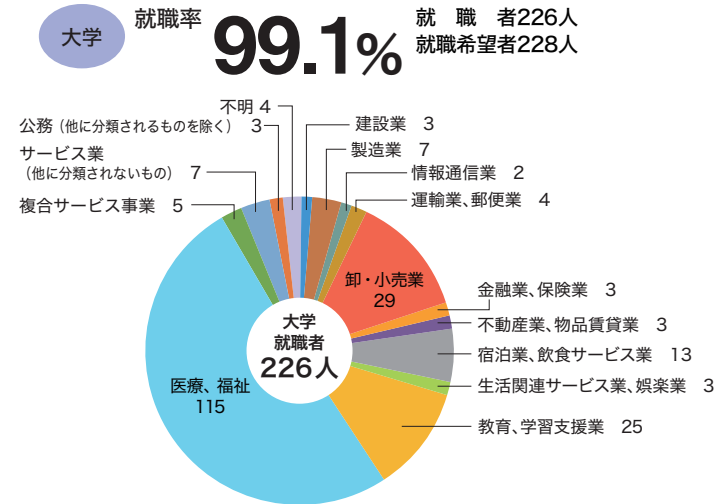
大学		教授	准教授	講師	助教	助手	計
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	9	4	2	0	0	15
健康科学部	栄養マネジメント学科	5	5	3	3	2	18
	健康システム学科	6	4	1	0	0	11
看護学部	看護学科	9	5	8	2	6	30
生涯福祉学部	社会福祉学科	5	2	1	0	0	8
	こども福祉学科	6	4	0	0	0	10
共通教育機構		4	5	0	0	0	9
高等教育研究センター		2	0	0	0	0	2
大学計		46	29	15	5	8	103
大学院 (学部兼務教員含む)		教授	准教授	講師	助教	助手	計
現代ビジネス研究科		10	1	0	0	0	11
看護学研究科		11	3	1	0	0	15
大学院計		21	4	1	0	0	26
短期大学部		教授	准教授	講師	助教	助手	計
保育科第一部・第三部		6	6	4	0	0	16
短期大学部計		6	6	4	0	0	16
大学・大学院・短期大学部合計(職位別)		55	35	19	5	8	
大学・大学院・短期大学部合計(総数)							122

## ●専任事務職員数

(単位：人)

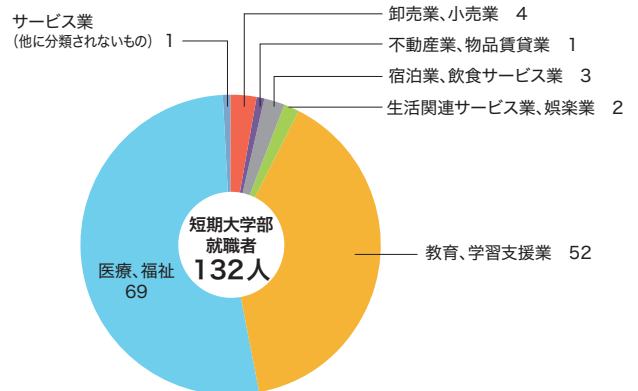
大学・短大共通	59
---------	----

## ●令和元年度卒業生 就職状況 (単位：人)



## ●短期大学部

就職率 **100%** 就職者132人 就職希望者132人




## ●地域別就職状況 (単位：人)

関東	東京都	29
	神奈川県	1
中部	富山県	1
	石川県	1
	愛知県	1
	三重県	1
関西	京都府	2
	大阪府	34
	兵庫県	273
中国	鳥取県	1
	島根県	2
	岡山県	8
	山口県	1
	四国	愛媛県
九州	福岡県	2
合計		358

## ●兵庫県内内訳 (単位：人)

神戸市	84	播磨町	3
姫路市	52	伊丹市	2
加古川市	29	宝塚市	2
明石市	27	小野市	2
高砂市	10	淡路市	2
西宮市	7	福崎町	2
尼崎市	6	洲本市	1
太子町	6	豊岡市	1
西脇市	5	丹波篠山市	1
芦屋市	4	南あわじ市	1
赤穂市	4	朝来市	1
加西市	4	宍粟市	1
稲美町	4	たつの市	1
三木市	3	佐用町	1
三田市	3	香美町	1
加東市	3		
合計			273

※14・15ページ掲載データは全て令和2(2020)年5月1日現在のものです。



兵庫大学

### 福祉関係

- 社会福祉法人はりま福祉会せりりょう園
- 一般社団法人日の出医療福祉グループ
- 特定医療法人社団仙齡会
- 社会福祉法人太子福祉会
- 社会福祉法人桜谷福祉会
- 社会福祉法人正久福祉会

### 行政機関

- 兵庫県東播磨県民局
- 加古川市 高砂市
- 稲美町 播磨町 明石市

### スポーツ

- ASハリマアルビオン株式会社
- 株式会社トップラン

### 生涯学習機関

- 公益財団法人兵庫県いきがい創造協会

### NPO

- NPO法人シミズシーズ
- NPO法人 Deep people

### 産業界等

- 兵庫県商工会連合会
- 加古川商工会議所
- 高砂商工会議所
- 稲美町商工会 播磨町商工会
- 但陽信用金庫
- 株式会社加古川ヤマトヤシキ

## 連携協定 兵庫大学 × 地域

本学では、活力ある地域の形成及び発展と相互の人材育成に寄与することを目的とし、行政機関、スポーツ関係、福祉関係、教育機関等と連携協定を締結しています。この連携協定を通じ、地域形成および発展に向けた取り組みを推進しています。

兵庫県立加古川南高校	兵庫県立香寺高校	兵庫県立高砂高校	兵庫県立高砂南高校	兵庫県立姫路商業高校
兵庫県立加古川北高校	兵庫県立神崎高校	兵庫県立農業高校	兵庫県立松陽高校	神戸野田高校
兵庫県立神戸北高校	兵庫県立姫路別所高校	兵庫県立播磨南高校	兵庫県立小野工業高校	
兵庫県立東播磨高校	兵庫県立明石南高校	兵庫県立錦城高校	兵庫県立明石清水高校	

※令和2(2020)年9月1日現在。

## ● 本学教員の近刊図書 ●

- ### ● The Encyclopedia of Women and Crime

共通教育機構 Michael H. Fox  
John Wiley and Sons/共著 Frances Bernat 編著 2019年5月発行  
Author of entry: "Wrongful Convictions."
- ### ● 新・保育と表現

こども福祉学科 澤田真弓  
嵯峨野書院/共著 石上浩美 編著 2019年5月発行  
乳幼児の自己表出を音楽、造形、身体表現などの多様な視点から読み解き、多くの事例を通してわかりやすく解説。保育を学ぶ学生はもちろん、幼い子どもと関わる全ての方におすすめの一冊。
- ### ● MINERVAはじめて学ぶ保育① 保育原理

こども福祉学科 澤田真弓  
ミネルヴァ書房/共著 戸江茂博 編著 2019年5月発行  
保育とはどのような営みであるかについて、その本質や意義、制度、思想、歴史を通して学ぶ一冊。丁寧な用語解説を記載し、誰にでも読みやすく、保育に興味を持つ全ての方にお勧めしたい。
- ### ● 大学教授職の国際比較—世界・アジア・日本

高等教育研究センター 有本章  
東信堂/編著 2020年2月発行  
大学教授職の通時的な歴史変遷という縦軸と、西洋・アジア・日本の共時的な国際比較という横軸からこの課題をひも解き、今日の大学教授職のあり方に深く切り込んだ一冊。
- ### ● 幼児と健康—日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識—

看護学科 小島光華  
株式会社 ジアース教育新社/共著 小野 次明・榊原 洋一 編著 2020年4月発行  
幼児の精神面・運動面の発達から、生活習慣の形成、幼児期の発達障害と病気の予防、安全教育など、子ども理解と支援・指導の基礎的な知識を網羅。保育士を志す学生や、いま、幼児教育に携わる先生必携の書。

## ありがとうございます。プロフェッショナルへ。

### ～タグライン策定の意義～

このタグラインは、私たち兵庫大学の教育に込めた思いを表現したものです。建学の精神の「和」を大切に、感謝、寛容、互譲の心と高度な技術を併せもった人材の育成を学内外の多くの方々にお約束する内容を表明しています。


～「タグライン」に込める想い～

「ありがとう」に  
あふれる人生を送ってほしい、  
それが私たちの願いです。

あらゆることに感謝の念を抱きながら、  
仕事をさせていただくこと。  
他者にこころを寄せ、  
おたがいに認め合い大切にしようこと。  
そして、他者とおたがいに譲りあい、助けあうこと。


すると、やがてあなた自身が  
「ありがとう」という感謝の言葉を  
いただくことができる専門家となります。  
それこそが、私たちが目標とする  
“ありがとうのプロフェッショナル”なのです。  
私たちはあなたの一生を支える力を育みます。

生きる力に変わる学びを、あなたに。



## 兵庫大学


ありがとうございます。



(大学公式サイト)

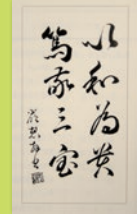
読者アンケートの  
お願い

今後のよりよい広報誌づくりのため、次のアンケートフォームより皆さまのご意見をお聞かせください。  
[http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/inquiry/post\\_45.php](http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/inquiry/post_45.php)



編集後記

今回のテーマは“グローバル(Global×Local)”です。取材をする中で、本誌だけでは伝えきれないほどの貴重なお話を沢山いただき、本学へ寄せる期待や想いを感じました。そんな想いがギュッと詰まった1冊です。手に取って読んでいただけると嬉しいです。(Y)



表紙「和」  
学園創設者 河野 巖想 書  
「以和為貴 篤敬三寶<sup>※1</sup>」から一字引用  
※1 「和を以て貴とし、篤く三宝を敬え」十七  
条憲法には和を大切に、三宝を敬うようにとあります。  
三宝は仏教における仏(覺者)、法(教え)、僧(仏と法を  
大切にする人)の三つの宝です。